



2023 年度トルコ発掘報告会・ 第 30 回トルコ調査研究会のご案内

(公財) 中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所は、2023 年度の発掘調査を、ビュクリュカレ、カマン・カレホユック、ヤッサホユックの 3 遺跡において 4 月下旬から 11 月初旬にかけて順次行いました。ビュクリュカレではヒッタイト語、フリ語で記された粘土板文書が出土し、カマン・カレホユックからは 4300 年前頃の炉址が出土、ヤッサホユックからは 4300 年前の大火災を受けた宮殿址の下からさらに古い大火災層が確認され、大規模な建築遺構が出土し始めています。いずれの成果も、歴史の転換点を示唆するものであり、アナトリアだけに止まらず中近東世界の古代の歴史を捉える上で極めて重要なものと考えています。

報告会ではこれら 3 遺跡の発掘報告を、研究会では 3 遺跡に関わる研究発表を行います。

皆様には是非ご参加頂きたく、ご案内申し上げます。

記

日 時 2024 年 3 月 3 日 (日) 13:30~16:30
3 月 4 日 (月) 10:00~16:00

会 場 東京国立博物館 平成館大講堂 (東京都台東区上野公園 13-9)

受 付 東京国立博物館 平成館大講堂 1 階 入口
※受付開始時刻 3 日 (日) 12:30
4 日 (月) 09:30

参加費 2,000 円

主 催 (公財) 中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所

*Japanese Institute of Anatolian Archaeology (JIAA),
The Middle Eastern Culture Center in Japan*

3月3日（日）2023年度トルコ発掘報告会

- 13:30 ご挨拶 アナトリア考古学研究所の活動 大村 幸弘（アナトリア考古学研究所）
- 13:55 第14次ビュクリュカレ発掘調査（2023年） 松村 公仁（同上）
- 14:40～15:00 休憩
- 15:00 第36次カマン・カレホユック発掘調査（2023年） 大村 幸弘
- 15:45 第14次ヤッスホユック発掘調査（2023年） 大村 正子（同上）
- 16:30 閉会の辞 大村 幸弘
- 17:00 懇親会
-

ビュクリュカレ Bülükale

ビュクリュカレ遺跡はクズルウルマック河西岸に位置し、城塞部とそれを取り囲む都市部からなり、径約600mの規模を持つ紀元前2千年紀の都市遺跡です。2009年に本格的に発掘を開始しましたが、フリ語で書かれた紀元前15/14世紀の楔形文字文書(宗教文書)が2019年以降毎年出土しています。フリ語の宗教文書はこれまでアナトリアでは王宮所在地とされるボアズキョイ、オルタキョイ、カヤルブナルの3遺跡でのみ出土しており、これらの遺跡と同様に、ビュクリュカレ遺跡が極めて重要な都市であった可能性が高くなりました。



隊長 松村公仁

カマン・カレホユック Kaman-Kalehöyük

カマン・カレホユック遺跡は、トルコ共和国の首都アンカラから南東に約100キロの地点にあり、アンカラ-カイセリを東西に結ぶ古代の道の北側に位置しています。直径280m、高さ16mのアナトリアでは中規模遺跡ですが、数多くの層を為して古代の都市遺構が堆積しています。1985年に考古学的予備調査を行い、そして1986年から開始した本格的発掘調査の主目的は、「文化編年の構築」、すなわち「年作り」になります。2023年の調査では主に、前期青銅器時代の二つの大火災層の間で検出されたほとんど火を受けていない建築層と後期青銅器時代-ヒッタイト帝国時代の建築遺構と貯蔵庫の調査を行いました。



隊長 大村幸弘

ヤッスホユック Yassihöyük

中央アナトリアの幹線道路上にあるヤッスホユック遺跡は、南北500m、東西625m、高さ13mの比較的大きな遺丘と、その北裾野に広がる下の町からなります。2009年に開始した遺丘の発掘調査ではこれまでに鉄器時代、中期青銅器時代、前期青銅器時代の3文化層を確認し、2018~2019年には下の町において、遺丘上の第II層中期青銅器時代に平行するアッシリア商業植民地時代(紀元前2千年紀初頭)の居留区の存在を明らかにしています。2021~2023年には遺丘頂上部でこれまでに発掘されていた前期青銅器時代の大遺構の下に、さらに大きな遺構群を含む厚い火災層が存在することを確認し、紀元前3千年紀の中央アナトリアにおける都市の変遷を辿る貴重な手掛りを提示しつつあります。



隊長 大村正子

3月4日(月)第30回トルコ調査研究会

司会 福田勝利(京都大学)

- 10:00 カマン・カレホユック遺跡における、ごみ堆積物の層序復元
多田賢弘(千葉工業大学)
- 10:20 カマン・カレホユック近傍古沼地堆積物による前期青銅器時代
～鉄器時代の局所的な古環境復元 鈴木健太(千葉工業大学)
- 10:40 アナトリア中部の Eski Acıgöl 湖跡の堆積物が記録する過去
～5000年間の急激な古環境変動 多田隆治(千葉工業大学)
- 11:00 質疑応答

..... 11:10-11:20 休憩(10分)

司会 大村正子

- 11:20 メソポタミアの彩文土器を復元する-2019・2022年度実験報告
小泉龍人(明治大学,
NPOメソポタミア考古学教育研究所)
- 11:40 モグラの習性を活かした地中探査によるヤッスホユック遺跡「下の町」の都市構造調査
福田勝利(京都大学)
- 12:00 カマン・カレホユック、ヤッスホユック両遺跡出土スカラベについて
内田杉彦(金沢大学)
- 12:20 質疑応答

..... 12:30-13:30 昼食

司会 大村幸弘

- 13:30 カマン・カレホユック II a 層出土(2004年度調査)の鉄製短剣について
津本英利(古代オリエント博物館)
- 13:50 カマン・カレホユック遺跡内の炭から考察する金属加工:予察的研究
佐竹 渉(千葉工業大学)
- 14:10 中央アナトリアにおける初期の鉄の生産について:カマン・カレホユック遺跡
青銅器時代出土の鉄を多く含む鉱石、スラグ、遺物の物質科学的研究
ヌルジャン・キュチュックアルスラン(千葉工業大学)
※通訳 森脇涼太(千葉工業大学)
- 14:40 質疑応答

..... 14:50-15:00 休憩(10分)

司会 松村公仁

- 15:00 前14世紀初めのヒッタイトの西方・北方情勢とビュクリュカレ遺跡について
山本 孟(山口大学)
- 15:20 ビュクリュカレ遺跡出土のテシヨブ神に対するフリ語祈祷
マーク・ウィーデン(ロンドン大学)
※通訳 山本 孟
- 15:50 質疑応答
- 16:00 閉会の挨拶 大村幸弘

<申込要領>

① 参加ご希望の方は、アナトリア考古学研究所ホームページ：<http://www.jiaa-kaman.org> の参加申し込みフォームからお申し込みください。もしくは、申込用紙に必要事項をご記入の上、Fax または郵送にて下記までお送り下さい。

- * 二名以上でご参加の場合も、お一人ずつお申込み下さい。
 - * 参加費 2,000 円 (含 資料代) は、当日受付 (平成館) にて申し受けます。
- なお、どちらか一日ご出席の場合も、参加費は 2,000 円となりますので予めご了承ください。

宛 先： 〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-31
中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所
Fax：0422-31-9453 E-mail：tokyo@jiaa-kaman.org
締 切：2月26日(月) 必着
定 員： 350名 (定員になり次第、締切らせて頂きます。)

② 報告会終了後、懇親会を行いません。どなたでもご参加いただけます。皆さまのご参加をお待ちしております。

報告会日時：3月3日(日) 17:15~19:00
会場：東京国立博物館 **東洋館1階**「ホテルオークラレストラン ゆりの木」
会費：一般：6,000円 学生：3,000円
※学生の方は当日学生証をご提示下さい。

- * 準備の都合上、参加ご希望の方は2月26日(月)までにお申し込みくださいますようお願い致します。
- * なお、懇親会費は 当日報告会受付(平成館) にてお支払い下さい。

☞ 参加費・懇親会費ともに、できる限りお釣りのないようご用意ください。ご協力のほどよろしくお願い致します。

<ご案内>

☞トルコ調査報告会会場へは
東京国立博物館 **西門** からお入りください。正門からは入場できませんのでご注意ください。

<交通>

会場最寄り駅：

- ・JR 上野駅 公園口 徒歩約 15 分
鶯谷駅 南口 徒歩約 10 分
- ・東京メトロ 銀座線・日比谷線
上野駅 徒歩約 15 分
千代田線 根津駅 徒歩約 15 分
- ・京成電鉄 京成上野駅
徒歩約 15 分



(公財)中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所 TEL: 0422-32-7665 (直通) < 11:00~17:00 / 月火水金 >
(公財) 中 近 東 文 化 セ ン タ ー TEL: 0422-32-7111 (代表) < 10:00~17:00 / 月火水金 >